

アガペーに出会う（第2回）「罪という名の痛み」

聖書箇所：

マルコによる福音書 2章 17 節

「イエスはこれを聞いて言われた。『医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。』」

詩編 51 篇 19 節

「神の求めるいけにえは砕かれた霊。神よ、砕かれ悔いる心をあなたは悔りません。」

前回は、「条件付きの愛に生きてきた私たち」というテーマで、人がどうして他人を裁いてしまうのか——その深層にある、無条件に愛されたいという願いと、無意識に「条件付きの愛」で人に接してしまう傾向について、ご一緒に考えました。そして、「罪」というものは「アガペーの不在」という言い方によって、実によく表現されるということもお話しました。少し振り返りますと、傷ついている多くの人は、生まれてすぐに置かれる環境——特に、親から受ける影響によるところが多い。ネガティブな影響が強い場合、心に傷を残したまま成長していく傾向があります。「アガペー」とは、無条件の愛のことで、その人の存在を丸ごと受け入れるあたたかさをもちます。基本的に人間にはそれが備わっておらず、条件付きの愛され方しか知らないケースが多いです。そういう接し方ばかりされていると、自分もまた誰かに「条件付きの愛」を向けていく傾向がある。このような「負の連鎖」が私たちの生きるこの世界では起きている、そんなお話をさせていただきました。

今日は、その続きとして、「罪」というものを、少し違った視点から見つめてみたいと思います。皆様は、「罪」という言葉に、どんな印象を持っておられるでしょうか。悪いことをした、法律を破った、神に逆らった——そういう意味を思い浮かべるかもしれません。ですが、今日私たちが向き合おうとしているのは、「誰もが心に抱えている痛み」、そして、「その痛みが他者にもたらしている連鎖的な傷」、つまり「罪」です。ある人は、自分自身を責めています。

「どうしてあのとき、あんなことをしてしまったんだろう」

「あの一言を言わなければよかった」

またある人は、過去に傷ついた経験をなかなか乗り越えられずにいます。

「理由を説明する余地もなく叱られたり、殴られたりした」

「人格を否定するようなことばを投げかけられた」

そういう経験を乗り越えられずにいると、知らず知らずのうちに他の人にも同じことをしてしまう傾向があるのです。それによって、多くの関係性が壊れてしまうことがある。その理由は、他者に対して自分の中の「条件」を常に押し付けているからです。

イエス様は、ある日、病人たちや罪人と呼ばれた人々と一緒に食事をされていました。それを見た律法学者たちは、「なぜ、あんな人たちと食事をするのか」と言いました。このことばの本質は、「あの不道德な人間たちを俺たちは受け入れない」という意味です。つまり、彼らは、自分が定めた基準に達していなければ、人を受け入れないという意志を表明していたのです。ところが、イエス様はこう言われました。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」(マルコ 2:17)

これほどやさしい言葉があるのでしょうか。このことばの中にこそ、「アガペー」の本質があります。イエス様は、罪人を責めるために来られたのではありません。むしろ、「その痛みの中にいるあなたのために来た」と言ってくださっている。その人がどんなに「悪い状態」にあったとしても、イエス様は「わたしはあなたを見捨てない」「あなたの回復を願っている」「わたしと一緒にいれば、それが起きる」と言っておられるのです。

聖書には、罪を犯して悔い改めたダビデ王の祈りが記されています。ダビデは、部下たちが戦いに出ていたとき、夕涼みにぶらぶらと宮殿を歩いていました。すると、見目麗しい女性が入浴しているのが目に入りました。彼女が誰であるかを調べさせ、夫ある身であることを知りながら、王たる地位を利用して、彼女を宮殿に招き入れ、妊娠させ、更に、その罪を隠蔽するために彼女の夫を戦いの最前線に送って殺害するということまでしました。この罪を指摘するために、預言者ナタンが派遣されました。彼のことばによって、ダビデは初めて自分が神との関係を壊したことを知ったのです。彼は、自分の失敗と向き合いながら、こう祈りました。

「神の求めるいけにえは砕かれた霊。神よ、砕かれ悔いる心をあなたは悔いませぬ。」

(詩編 51:19)

ダビデは自分がどれほど大きな過ちを犯し、神と人との関係を壊してしまったかを理解していました。そして、その過ちを隠すということをせず、ありのままの自分を神様の御前に差し出したのです。驚くべきことに、神様が受け入れてくださるのは、完璧な人間ではなく、むしろ、「もう無理です」「わたしには償うことすらできません」と砕けた心を差し出す人なのです。自分の力ではどうすることもできない「無力さ」に気づいた人こそ、実は神様の赦しの恵みを受け取る準備ができたと言えます。つまり、こう言うことができるかもしれません。私たちが罪を自覚するとき、それは“終わり”ではない。それは、「神様、この泥沼から私を救い出してください」と言える新しい関係の始まりです。実は、神様は私たちのそのようなことばを待っておられるのです。私たちがありのままの自分を差し出すとき、神の恵みが動き出すのです。

よく、こういう言葉を耳にします。

「過去は変えられない」

確かにそうなのですが、過去の意味を変えることはできます。それは、アガペーと出会ったときに起こる奇跡です。

もう何度かお話しした内容ではありますが、私自身のことを証ししたいと思います。私は大学生の頃、深い心の重荷を抱えて生きていました。ある人が許せない、そういう自分に苦しんでいたのです。私の人格を否定し続けた人の言葉によって、癒され得ない傷を負っていましたその人を許したいと思いながら、それがどうしてもできなかったのです大学2年の頃、大学の修養会に参加したとき、夜、ある先輩と話し込む機会が与えられました。私は自分が抱えていた「心の問題」を、打ち明けました。そのとき、過去に一度も聞いたことのなかったことばが、その人の口から発せられたのです。

「許せないのは当たり前だよ。君にはそんな力はないんだから。でも、そういう君のために、イエス様は命を捨ててくださったんじゃないの？」

頭をぶん殴られた感じがしました。しかし、同時に、長年の肩の重荷が一举に取り去られた気がしました。このままでいいんだ。「許せる」人間になったから受け入れられるのではないんだ。「許せない」ままで、受け入れられているんだ。そのことを初めて知った経験だったのです。まさに、アガペーと出会った瞬間でした。全身の細胞が沸き立つような感覚を覚えました。重くのしかかっていた「心の石」が取り除けられ、まるで背中に羽が生えているかのように、心と体が軽くなりました。無条件に受け入れられる、条件なしに愛される、アガペーとは、まことに人を苦しみから解放するものなのです。

神様は、あなたの痛みを知っておられます。そして、こう言っておられます。「あなたの痛み、そしてそこから引き出されてしまう罪が、あなたの終わりではない。それは、わたしと出会う入口なのだ」と。今日のメッセージを通して、自分の心にある“痛み”に気づいたなら、それは、イエス様がその場所に来てくださっているしるしです。イエス様はそこに立ち、やさしく語りかけてくださいます。

「あなたの痛みを、わたしにゆだねてごらん」

今回は「無条件の愛との出会い」というテーマで、罪のただ中にある私たちに注がれる、アガペーのまなざしを見ていきます。それでは今週も、主の愛に包まれて歩んでまいりましょう。

【祈り】

愛する天の父なる神さま。あなたの前に、いま私たちは心を静めて立ちます。自分ではどうにもならない過去、許せない誰か、そして許せないままの自分自身を、いま、ありのままに差し出します。私たちは、正しさで人を裁き、強く見せることで自分を守ろうとしてきました。でも本当は、ただ愛されたかった。ただ、赦されて受け入れられたかった。今日、その深いところにある痛みを、あなたがやさしく撫でてくださったことに、心から感謝します。「あなたの罪が、あなたの終わりではない。それは、わたしと出会う入口なのだ」——その御声が、私たちの心の奥まで届いています。どうか主よ、傷ついた心にあなたのアガペーを注いでください。壊れてしまった関係のただ中に、あなたの癒しの風を吹き込んでください。「赦せないままで愛されている」その恵みに目を開かせてください。これからも、罪にとらわれるのではなく、アガペーに生かされる人生を、あなたと共に歩むことができますように。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、

たとえ赦せないままでも、失敗したままでも、それでもあなたを見捨てず、
「わたしはあなたと出会うために来た」と語ってくださる——
主イエス・キリストの恵み、

私たちの心の奥深くまで知っておられ、砕かれた霊を決して侮らず、
「あなたはわたしのもの」と呼んでくださる——
父なる神のアガペーの愛、

そして、言葉にならない痛みを理解し、ともに涙を流しながら歩んでくださる——
聖霊の親しき交わりが、

ここに集うお一人おひとりとともに、今も、そしてこれからも、限りなくありますように。